

音 楽 指導事項を踏まえ、資質・能力の育成を目指した授業づくりのポイント

新学習指導要領では、音楽科の内容は資質・能力に対応して構成されており、内容の各事項（指導事項）を踏まえた授業を行うことで、資質・能力の育成を目指すことができます。以下に、指導事項を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等」（各事項アに対応）、「知識」（各事項イに対応）の育成を目指した授業づくりのポイントを示します。

（題材例）小学校第4学年 題材名「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」 教材名「とんび」
題材で扱う事項「A表現 歌唱ア、イ、ウ（イ）、〔共通事項〕ア」
児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素「旋律、強弱、呼びかけとこたえ」

〔共通事項〕ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考えること

歌唱イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと



「知識」の育成を目指し、児童が、旋律、強弱、呼びかけとこたえを思考・判断のよりどころとして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて、気付くことができるようにします。

- T：3段目を歌ってみてどんな感じがしましたか。
C1：2羽のとんびが呼びかけ合っている感じがしました。
T：曲のどんな特徴から、そう感じましたか。
C2：同じ歌詞や旋律が4回繰り返されているところからです。
T：なるほど。では、旋律の動きに合わせて、手を動かしながら歌い、確認してみましょう。
C3：2、4回目は音の高さが低くなっているの、離れたところから、呼びかけに答えている感じがします。
T：では、歌詞の内容からイメージしたことを基にして、とんびの気持ちになって、ペアで「呼びかけ」と「こたえ」に分かれて歌ってみましょう。

Point! 児童が、感じ取ったことの原因を音楽の構造や歌詞の内容の視点から捉えることができるよう、発問等を工夫します。また、個々に聴き取ったことを、体を動かす活動などによって視覚化し、音楽活動を通して全員で確かめ、共有を図ることが大切です。

歌唱ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと



「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指し、児童が、気付いたことを生かしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにします。

- T：みなさんのイメージしたことが、聴いている人に伝わるように歌うには、どのように表現を工夫したらよいでしょう。ペアで歌いながら考えてみてください。
C4：「呼びかけ」を強く、「こたえ」を弱く歌ったら、本当に呼びかけ合っている感じになったね。
C5：そうだね、遠ざかっていく感じも表現したいな。
C4：「だんだん弱く」歌ったら、雰囲気が出てきたね。
C5：「強く、やや弱く、やや強く、弱く」歌ったら、呼びかけ合いながら遠ざかっていく感じになってきたね。
T：C4さんたちのペアは、強弱を工夫することで、自分たちのイメージを伝えることができそうですね。

Point! 表現の変容を捉え、そのよさを具体的に伝えるなど、思いや意図をもって活動に取り組むことで歌唱表現が高まったことを価値付けます。また、全体で共有させることで、他の児童が自らの表現の工夫に生かし、思いや意図を膨らませていくことができるようにします。